



のっぽの手



ふくしま元気市民活動助成金
チヨコラボ主催セミナー開催
チャイルドライン進捗状況

2012年11月発行

『ふくしま元気市民活動助成金』

～コラボ事業の新展開～

理事長 星野 珉二

本年も、小さな自主事業にこだわって、「ふくしま元気助成金」を継続することになりました。もともと、当センターが認定NPOを取得したことを契機に、寄付金控除の特典を活かしながら、本事業を展開していこうと発想したものであります。ぜひとも、寄附金を広く集めながら、本事業を定着させていきたいものです。とくに、災害復興の時期でありますので、わずかな助成金額ではありますが、少しでもふくしまの元気に貢献できれば幸いと考えております。

すでにみなさんご存知のように、ここ2回ほどの助成においては、福島中央ロータリークラブさんと二人三脚で事業を進めてまいりました。ロータリークラブさんでは、一定の金額を用意し、環境の保全や子どもの健全育成の活動に特定して、分野を棲み分けしながら一緒に助成事業を行ってまいりました。当センターでは

この選考事務のお手伝い役を担ってまいりました。その意味では、ふくしまNPOネットワークセンターと福島中央ロータリークラブさんとのコラボ事業でもありました。福島中央ロータリークラブさんの事情で、今回この助成事業は別の形に代わることになり、再び当センターの単独事業になるかと思われたところ、渡りに船とはこのことでしょうか、福島銀行さんから新たな提案が出てまいりました。

福島銀行さんからの申し出は、当該銀行さんでは全県で事業を展開されていますので、福島県内全域を対象に、福島中央ロータリークラブさんの時と同じように、当センターに選考事務を委託する形で、分野を棲み分けながら、コラボ事業を一緒にしませんかということでありました。いいタイミングの有難い提案です。それを受けて、当センターでも、県内全域に対象を広げて助成する新しい仕組みづくりを鋭意検討しております。

—2011年度の採択事業から—



「広げよう音楽の和」
NPO法人 福島ウインドア
ンサンブルの事業のようす



「団塊世代、高齢者の居場所」
NPO法人 コミュニティチャ
ばたけの事業のようす

2012 ふくしま 元気市民活動助成金 対象活動募集!!!

地域に暮らす人たちが、地域で抱える問題を自分たちの方で解決しようと努力する活動を支援するために、助成金を支給します。

※福島県内全域
地域のために、元気に活動している団体を応援します。

※福島県内全域
未来づくりのために、元気に活動している団体を応援します。

助成金額 10万円
1団体あたり上限

応募資格
2012年11月 5日(木) - 11月30日(金)

対象事業予定
公募事業の中から3事業

あなただけの活動も応援しよう!!
寄付金募集
(助成金に活用します)
※NPO法人・NPO等には、寄付金控除の特典があります。

ふくしま元気市民活動助成金-福銀みんなのサポート市民活動助成金についてはネットワークセンターHPで確認ください。
<http://www.f-npo.jp>

募集から報告までのスケジュール

11月 5日(木)	助成金対象募集開始
11月30日(金)	助成金対象募集終了
12月 9日(金)	選考会 助成事業決定
12月 15日(金)	結果の通知
2013年5月	助成金の申請書受付開始
2013年5月	助成事業の終了
2013年6月	実績報告書の提出
2013年6月	実績報告書の提出

今年度の募集対象は県内全域!

※詳しくは後日、HPにてお知らせします。

<http://www.f-npo.jp/>

◆「東日本大震災・原発事故避難住民の起業化・雇用創出事業」セミナー◆

みんなが戻れる「新しい故郷・福島」をどう興すか！？

～地方発の復興ビジョンと集落・都市間の人口流動による地方再生への道筋を探る～

チョコラボ主催によるセミナー「みんなが戻れる“新しい故郷・福島”をどう興すか？」が、去る平成24年11月5日(月)、福島市のコラッセふくしまで開催された。

「人口減少と高齢社会における地方の再生に関する研究」の第一人者である政策研究大学院大学の松谷明彦名誉教授を招き、福島県並びに被災地区のコミュニティや地域経済の再生を重点テーマに講演をお願いした。

プログラムは、星野理事長の挨拶に続き、担当の深田よりチョコラボ施設の紹介と利用状況

等について報告、その後松谷先生の基調講演に移った。

松谷先生は、人口減少時代と高齢社会の社会システムについて説明された後、これまでのように東京圏に依存するのではなく自立でやる、そのためロボット生産ではなく人間が作る職人技の高級品をめざすことや、いい物を適量つくるヨーロッパ型の元気な外国の企業を呼び込むなど外の血を入れる視点、また、地域社会づくりには小さな地域で独立してやるということは無りであることから、都市と農村部が教育と介護などを役割分担し相互の人口交流を高めることが地方再生へのカギであること。さらには、寿命が伸びる高齢社会では所得が減り貧しくなるが、お金では買えない豊かさへの価値観の転換も必要であるなどについて話された。

(報告:チョコラボ担当 理事 深田俊雄)

みんなが戻れる福島
について考える。



連携・協働についてのアンケート結果

ふくしま地域活動団体サポートセンターでは、国が推進する「新しい公共」の担い手である民間非営利組織の活動基盤を強化するため、企業と民間非営利組織が連携・協働するために有効な支援について以下のようなアンケート調査(抜粋)を行いました。

●企業の社会貢献活動とNPOとの連携・協働について

1. 調査対象

福島県内の企業で、インターネットによる情報収集の結果、社会貢献事業に取り組んでいるか今までに取り組んだと思われる企業から、地域的な偏りが生じないように任意に抽出した企業。

2. 調査期間 2012年8～9月

3. 回答企業数 41社/90社

Q1. NPO等と連携・協働するにあたって、必要な取り組みは何ですか？

NPO等に対する理解を深めること	90.9%
NPO等に関する情報の収集	68.2%
自社の取組方針の確立	40.9%
担当部署・担当者の配置	13.6%

Q2. NPO等と連携・協働するにあたって、NPO等に対して望むことは何ですか？

活動や団体に関する情報の開示	77.3%
団体としての理念や取組方針の確立	50.0%
組織や運営体制の確立	40.9%
企業や企業活動への理解	36.4%

Q3. NPO等と連携・協働するにあたって、中間支援組織の協力が必要だと思いますか？

大いに必要である	22.7%
どちらかといえば必要である	54.5%
どちらかといえば必要ない	13.6%

◆『チャイルドラインこおりやま』進捗状況報告◆

チャイルドラインこおりやま 事務局長 小笠原 隼人

2010年1月に福島市でふくしま NPO ネットワークセンターが中心となり「チャイルドライン啓発フォーラム」を開催してから2年半が経ち、この9月に郡山市にてチャイルドラインの運営がスタートしました。東日本大震災後の、子ども達の心の混乱を危惧し、チャイルドラインでは昨年と今年の8月末に、県内全ての小中高校に、チャイルドラインのフリーダイヤルの番号が書かれたカードを配りました。今年は、カード配布後の1ヶ月で5,000件以上の電話がかかっています。

そのような膨大な数の相談をこおりやまの窓口だけでは受けきることはできませんが、チャイルドラインでは、自分たちが出られない電話は、他の場所にある別のチャイルドラインに自動的に転送されるようになっているため、子どもたちは、月曜

から土曜の16時～21時は、いつでもチャイルドラインに電話をかけることができます。

チャイルドラインこおりやまの当面の課題は、電話の受け手を増やすことです。2012年11月現在は、認定ボランティアが約25名、水曜の午後4時～9時のみの開設ですが、こどもの声を聴く仲間を増やし、開設日も拡充し、より地域に役立つサービスを運営していきたいと思っています。

もし、ご自身や身の回りに、こどもの心の声に耳を傾けることに関心がおありの方がいらっしゃいましたら、ぜひ事務局までお問い合わせください。

※小学生に配布されたカード⇒



特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター URL <http://www.childline.or.jp>

ふくサポ 平成24年度 市民活動講座 案内

「税務・会計」基本編

～伝授！税務・会計のいろは～

- 日時 平成25年1月19日(土)13:30～16:30
- 講師 安部 修太郎 氏
(安部総合会計事務所代表取締役 税理士)
- 定員 30名

平成24年4月から施行されている改正されたNPO法。この中でNPOの会計が収支計算書から活動計算書へ変わっている。「活動計算書がまだよくわからない」「税務処理にはいつも苦労していて…」そんな方にお勧めの税務・会計の基本を伝授する。

「ネットワークを育てる！人を育てる！ まちづくりプランニング」

～協働のまちづくりを考えよう～

- 日時 12月15日(土)13:30～15:30
- 講師 宮崎秀剛 氏(NPO法人くらそうねつ理事長)
- 定員 30名

人生設計があるようにまちづくりにも設計がある。復興に抱く想いも夢、希望、計画と人それぞれ。そういった様々な人たちが作るネットワークを作り、協働を行い、人材育成を行う。それがまちづくりにつながる。講師が震災から今日までのまちづくりや協働の経験事例を話し、後半は参加者と対話方式で未来の福島を考える。

「会計講座」実務編 ～会計をパソコンで学ぼう！～

- 日時 平成25年1月25日(金)26日(土)13:30～16:30
 - 講師/早川 哲郎 氏 (ITコンサルティング早川事務所代表)
 - 定員 各日15名
- 新しいNPOの会計にあわせたソフトを使い、パソコンを使った会計の実践術。実務レベルにあわせての講義ですので、講座を離れ、活動団体に戻って即実践できる。
※同一の講座を二日間開催いたしますので、ご都合のよい日にご参加ください。

参加費無料！
お申し込みは
ふくサポへ

<http://www.f-ssc.jp>

☎526-4533

◆まちの駅全国フォーラム in ふくしま開催決定！◆

10月1日に「まちの駅ネットワークふくしま」が設立され、連携を深める体制が整ったところで気持ちを新たにしていた折、まちの駅連絡協議会(東京)の事務局より、第16回まちの駅全国大会の開催地が福島に決定したとの報告が届きました。

10月24日福島市観光課、まちの駅連絡協議会の理事などの関係者で検討がおこなわれ、全国大会の開催が決定しました。



協働ですすめる
全国大会

復興のまちづくりに
貢献を



その決定を受けて、11月13日行政、各団体等13者による「まちの駅全国フォーラム in ふくしま実行委員会」が設置されました。

これから約1年をかけて準備を進めてまいりますので、皆様のご協力をよろしくお願いします。

(報告:常務理事 齋藤 美佐)

○まちの駅全国フォーラム in ふくしま○

- 開催日
平成25年10月18日(金)～19日(土)
- 会場
福島テルサ、福島市内、福島県内
- 実行委員長:作田謙太郎 氏
副実行委員長:福地雅人 氏、渡邊匡 氏
- 事務局
ふくしま情報ステーション

※まちの駅については、こちらをご覧ください⇒



<http://www.machinoeki.com/>

—福島県より受託、運営している施設—

●ふくしま地域活動団体サポートセンター

〒960-8043 福島市中町 8-2 福島県自治会館 7F
TEL 024-521-7333 FAX 024-523-2741
URL <http://www.f-npo.jp/saposen/>
E-mail saposen@f-npo.jp

●チョコラボ

〒960-8031 福島市栄町 7-33 錦ビル 4F
TEL 024-573-1970 FAX 024-573-1971
E-mail cholab@npo.-f.org

—福島市より受託、運営している施設—

●福島市市民活動サポートセンター

〒960-8041 福島市大町 4-15 チェンバおおまち 3F
TEL 024-526-4533 FAX 024-526-4560
URL <http://www.f-ssc.jp>
E-mail f-ssc@bz01.plala.or.jp

●まちの駅 ふくしま情報ステーション

〒960-8053 福島市三河南町 1-20 コラッセふくしま 1F
TEL 024-525-4020 FAX 024-525-4027
URL <http://www.machi-fukushima.jp>
E-mail info@machi-fukushima.jp

—編集後記—



✉ 風が冷たい季節になりましたね。年末に向けて忙しくなる時期です。風邪を引かないよう、がんばりましょう！

(事務局・根本 靖子)

✉ 2年振りに韓国旅行に行ってきました。楽しくて、中身の濃い旅になりました。次に行けるのは、いつになるかな…。

(事務局・大山亜紀子)



●編集・発行

特定非営利活動法人ふくしま NPO ネットワークセンター
〒960-8034 福島市置賜町 1-29 佐平ビル 8F
TEL 024-528-1211
FAX 024-528-1218
E-mail center@f-npo.jp
URL <http://www.f-npo.jp/>

